

令和4年度白河市行政改革推進委員会 第2回委員会会議録（要旨）

日時	令和4年12月22日（木）15時30分～17時00分
場所	白河市役所 全員協議会室
出席者	委員5名（2名欠席） 小林知二委員長、徳田芳江委員、鈴木富幸委員、和知玲子委員、金内貴弘委員
事務局等	6名 白河市長、井上総務部長、田崎総務課長、邊見係長、三次副主査、大橋主事
<p>1 開 会</p> <p>2 諮 問</p> <p>3 市長挨拶</p> <p>4 委員長挨拶</p> <p>5 議 事</p> <p>（1）白河市第2次行政経営改革プラン（案）について 【事務局より説明】</p> <p>【協議】</p> <p>（委 員）施設経営の強化について。公共施設を減らしていく中で、小学校は市でどのように考えているか。小学校によっては合併するのか、しないのか議論されている。</p> <p>（事務局）学校はコスト面よりも、運営面を重視している。人数が少ない学校では、部活動の数が減り、受けられるサービスが限られている現状がある。統合や学区の変更については、地域住民や保護者、こどもたちのニーズを伺いながら、検討を進めていく必要がある。</p> <p>（委 員）国では、部活動の民間委託を進めているが、外部で担う人材がいな</p>	

いと聞いている。

(事務局) 地方は特に厳しい。白河市だけでなく、県南全体で考えていく必要がある。学区の変更については、今通わせている子どもたち、特に兄弟がいる子どもたちが納得できるような仕組みにしたい。

(委員) 少人数の学校は、部活動の数も少ない。部活動を選べない状況もあると聞いている。

(事務局) 学校によっては、チームスポーツでも人数が集まらず、複数の学校の合同チームで大会に出ている場合もある。また、部活動のほか、有料の民間のクラブに通う子どもたちもいる。

(委員) 学校の統合等の問題は、そもそも少子化による人口減少が原因となっている。行革の面でどのように対応していくのか。

(事務局) 人口減少そのものについては、少子化対策として市全体で取り組んでいく必要があり、総合計画に大きく関わる。直接的に行革のプランに盛り込もうとは考えていない。行革の視点で、プランに反映できるようなものがあれば御意見をいただきたい。

(委員) 西郷村が人口増加していると聞く。なぜなのか。

(事務局) 土地が安く、若い人たちが家を建てる場合が多い。特定の人口を増やすだけだと、一時的な人口増になりやすい。そのあたりの見極めが重要である。西郷村の人口増については、悲観的ではなく、白河圏域で考えれば、生活圏も同じであり、プラスであると考えている。白河市の財政力の向上のためにもテレワーク設備を整備し、移住を中心に人口を増やそうと考えている。

(委員) 若い人たちの中では、アパートの家賃を払うよりも、安い土地を探して、家を建てたいと考える風潮があるようだ。

(委員) 白河市は、出生率の向上と移住者の増加のどちらに重きを置いているのか。

(事務局) 県知事は、どちらかというに移住メインで考えている。白河市でも同様に考えている。

(委員) 継続的な移住が増えることが重要で、施策の中心となるだろう。今のままだと、数十年後に高齢者ばかりになってしまう。

(委員) 人口減少の影響で、企業同士で人材の取り合いとなっている。白河市には、大卒が働き口を見つけられる会社が少ない。製造業だけではなく、研究職などの仕事もできるような企業も誘致してはどうか。若い人たちが20年30年住みたいと考えるまちづくりをしてほしい。

(委員) 西郷村では東京圏への月2万円の交通費の補助を出していると聞いた。白河市では、そうした取り組みはないのか。

(事務局) 白河市では、行っていない。研究職がある企業などを誘致するなど、大卒や女性が地元に残りたいと思い、白河市に住み続けられるような取り組みについて、研究していく。

(委員) 白河市に住んで良かったと思えるようなまちづくり、特に子育てがしやすい環境づくりをしてほしい。

(委員) 白河は、転職なき移住が可能である。白河の魅力をさらに発信してほしい。

(委員) 効率を求めることが多いが、削減だけでなく、必要な部分にお金を使ってほしい。地元の人たちのベースアップにつながるよう、人材育成の面にも目を向けてほしい。

(委員) 歳出の面では、障害者や高齢者など扶助費の割合が増えているが、今後さらに増えていくことが見込まれるため、ある程度予算化していくべきではないか。

(事務局) 今後の扶助費は増えていくため、それらの支出の増加を見込んだ予算のあり方を考えていかななくてはならない。

(2) その他について

【事務局より説明】

6 閉 会